

國際經濟報

(No. 983)

昭和四十一年一月一日發行
新増年大號

第十一卷第一號

【主要目次】

世界經濟の分裂と列國の動向

序論 國家群の形成と世界經濟 一七

米國 ニューディルの再編成 一九

英國 一貫せる全面的頹勢 二五

佛國 自由主義の末期的苦惱 三四

獨逸 大獨逸の形成と戰時體制強化 四一

伊太利 自給自足經濟への強行 四七

ソ聯邦 肅清工作と經濟政策の轉換 五〇

支那 破壊と建設の一年 五八

財界けふこの頃 六七

國際經濟報

(No. 984)

昭和四十一年十月二十日發行

第十二卷 第二號

新年第2增大號

【主要目次】

總動員法の發動と戰時體制

總動員法と總動員體制の整備 一九

具體化せる第十一條發動方法 二一

戰時金融機關と興銀の擴充 一三

勞働統制の強化進展 一五

汎米會議の收穫

輸出入銀行の存立意義とその活動 一九

英國の輸出信用保證制度の擴充 二二

慘敗せるフランスの總罷業 二四

近衛内閣退陣から平沼内閣成立まで 三二

池田から石渡へ財界けふこの頃) 三五

滿洲經濟の戰時化と五ヶ年計畫修正 二六

國際經濟報週

(No. 985)

號三第 卷十二第

昭和四十一年九月發行

【主要目次】

推進力の據點 興亞院と企畫院

興亞院の役割と機能 九
興亞院を動かす人々 一一

企畫院の改組擴充とその役割 一三

企畫院總裁 青木一男 一六

米價公定政策の苦惱 一七

米配給組織の改革問題 二〇

米國大統領の新教書 二二

英米の對支借款と西南交通路開發 二四

獨逸の四ヶ年計畫における合理化問題の變貌 二七

注精衛の對蔣公開狀 三九

米國大統領の國防特別教書 四二

英伊會談は失敗 四四

ハンガリーの満洲國承認並に防共協定參加 四五

大藏大臣 石渡莊太郎 二九

國際經濟報

(No. 986)

號四第 卷十二第

昭和四十一年六月廿六日發行

【主要目次】

纖維工業編成替の進捗

- 綿業 割期的編成替の實績 九
人絹 生産激減と輸出不振 一一
人織 生産高・設備は世界一 一三
パルプ 輸入抑壓と生産増加 一六

ファシスト國家の觀念と問題(上) タイナー 一七

獨逸の東漸政策の基本線 二二

動搖する波蘭の獨裁政治(上) 二三

蔣政權の關稅擔保外債元利拂停止 二五

滿洲移民政策の新發足 二六

英米佛三國の對日申入れ 三一

首相、外相、藏相の議會演說 三二

滿洲國防共協定に參加 三三

シヤハト總裁辭任 三四

滿洲國防共協定に參加 三五

質の落ちた特銀首腦部(財界けふこの頃) 三六

經濟國際週報

(No. 987)

號五第 卷十二第

行發日二月二年四十和昭

【主要目次】

ファシスト國家の觀念と問題(下) スタイナー

米管案をめぐる臺灣の農業 一九

シヤハトからフンクへ 二三

昨年の對外貿易の解剖

戰時貿易政策の發展 九

圓ブロック・第三國貿易 一一

商品別貿易の分析 一三

動搖する波蘭の獨裁政治(下) 二五

米國の軍需工業の現狀 二八

英國爲替平衡資金の金補充と“磅”的漸衰 三〇

增新税の原案大綱 三五

スーエー
吳佩孚將軍蹶起 四一

支那五中全會の討議 四二

四國平和會議招集か 五三

議會だより 五三

社信通同盟

國際經濟報

(No. 988)

號六第 卷十二第

昭和二年九月二日發行

戰時金融の推移と統制の成果

- 國債消化の好調とその意義 一〇
公債政策の成功と通貨の膨脹 一一
貯蓄の累増—銀行勘定の解剖 一二
計畫資本と資本構成の變化 一四

【主要目次】

- 臨時増稅案の大綱 一七
フランス軍の勝利と歐洲政局 二〇
チユニス問題の背景とその前途 二二
旋風下の東大經濟學部 二六

スーエニ	
中央物價委員會の機構改革	三〇
中國和平救國會成立	三八
ヒトラー總統の國會演説	四八
ソヴェト第三次五ヶ年計畫の全貌	五〇

議會だより.....

國際經濟報

(No. 989)

號七第 卷十二第

昭和十二年四月六日發行

【主要目次】

英國の軍備擴充と、磅の頽勢

軍備擴充計畫と進行途上の諸問題

白熱的軍擴下の英國經濟

英蘭銀行の金準備評價換

金とスター・リング エコノミスト一八

磅の頽勢とその世界制覇の基礎

わが産業構成變化の實相

—昭和十二年工場統計速報の解剖—

全國倉庫統計にみる物資不足の實情

海南島攻略の意義

臺灣米移出管理法案の要綱

北支の舊法幣建による契約禁止

皇軍海南島に奇襲上陸

スペイン人民戰線政府の首脳亡命

社大・東方會の合同成る

國際經濟報

(No. 990)

號八第 卷十二第

昭和四十一年二月三日發行

〔主要目次〕

物價統制政策の新局面

- 統制の混亂と價格形成への出發 九
生糸相場の奔騰と物價政策 一一
小賣物價の昂騰と抑制策 一四
横行する闇相場 一六

白熱化する列國の建艦競争(上) 一八

- フランス民主制の危機 ペルチナツクス 一一
ビルマの反英騒擾 一二
満洲國經濟の發展 田中鐵三郎 二七
轉失業對策とその實績(上) 二九

議會だより

增税關係法案の要綱	三四
イギリスの國防白書	四五
圓ブロック貿易通貨策を日商建議	五三
アメリカ新棉花法案提出	五五

國際經濟報

(No. 991)

號九第 卷十二第

昭和三年三月二日發行

『主要目次』

獨逸の統制經濟政策の發展

- 獨逸貿易政策の基調 フンク：九
爲替政策と四ヶ年計畫 ノイマン：一〇
食糧自給政策の進展 ダレ：一三
價格形成とその安定策 ワグナー：一七
獨逸經濟への二つの批判 一八

- 再軍備と獨逸經濟の限度 バロ：一八
獨逸財政の餘力 ドワイルド：二〇

- 白熱化する列國の建艦競争(下) 二二
戰時增稅と稅制改革の方向 二五
轉失業對策とその實績(下) 二八
社大・東方會の合同破る 三〇

- スーエニ
平沼首相全官吏に訓示 三三
支那第三次參政會の成果 四〇
滿洪兩國の防共協定參加 四四、五一
ソ聯極東開發計畫の内容 五一

議會だより

國際經濟報

(No. 992)

號十第 卷十二第

昭和三年九月三日發行

〔主要目次〕

中南米における英米獨伊の通商戦

英米獨伊の政治的經濟的角逐 九

獨逸の通商政策 一四

米國の通商政策 一五
英國の通商政策 一七

纖維工業資本の集中激化 一八

日本輕金屬を繞るアルミ増産問題 二一

廢品回収の現状と回収政策の強化 二四

米穀配給統制法案の基本問題 二七

スーエニ	
十四年度臨時軍事費追加豫算案	三五
生糸相場の狂騰	三八
中國聯銀の爲替集中策	四一
英國々防豫算發表	四九

弗と磅との購買力平價 カツセル二九

國際經濟週報

(No. 993)

號一十第一 卷十二第

行發日六十月三年四十和昭

【主要目次】

- 中國聯銀の爲替集中 一六
九十億豫算と軍事費 二二
「絹旋風」と物價政策 二五
絹織物價格の強權的引下げ 二六

中小商業の沒落とその對策

- 中小商業の現狀とその諸欵陷 九
支那事變の影響 一二
中小商業對策の發展 一四

香上銀行と支那事變

取締役會長 ピアース一
ヘ

英佛のフランス政府承認と歐洲政局 二七

第十八回ソ聯邦共產黨大會 二九

スーエニ	十四年度追加豫算案	三六
北支舊通貨の流通禁止	四一	
イギリスの支那法幣定資金設定	四四	
米伯經濟提携成る	四九	

議會だより 五一

大正九年十月九日第三種郵便物認可
毎週一回木曜日發行

國際經濟報

(No. 994)

號二十第 卷十二第

行發日三廿月三年四十和昭

【主要目次】

- 法幣安定資金の設定 一九
貿易組合機構の整理統制問題 二〇
チエコ遂に滅亡す 二三

蔣政權の西南經濟建設の實相

- 交通路建設第一主義 二九
輸出振興策とその前途 一二
工業建設問題と合作社運動 一五
西南建設の政治的意義 一八

米伯經濟協定成る

ガム島忘る可からず 伊藤正徳 二七

佛蘭西の空軍勢力(上) ピエール・コート 二九

明年度第二號追加豫算案 三四

北支通貨統一工作順調に進む 三八

チエコ共和國崩壊す 四一

バレスチナ會議は果然決裂 五〇

議會だより

國際經濟報

(No. 995)

號三十第 卷十二第

行發日十三月三年四十和昭

【主要目次】

英國の「寶庫」印度の動搖

- 英國の印度統治史 一九
- 印度の反英民族運動 一二
- 英帝國brookと印度 一六
- 印度綿業と英國の政策 一八

國策會社の簇生と國家資本の活動 二三

重工業資本の集中 二十五

フランス大統領小史 三〇

ス ュ ニ	絹織物等公定價格決定.....	三二
ス リ	日伊文化協定に調印.....	三三
ス リ	明年度豫算成立.....	三六
ス リ	米國新中立法案提出.....	四四
ス リ	ドイツのメーネル併合.....	五〇

第七十四議會を顧みる 二七

同 盟 通 信 社

大正九年十月九日第三種郵便物認可
毎週一回木曜日發行

國際經濟報

(No. 996)

號四十第 卷十二第

昭和四年四月六日發行

【主要目次】

共產黨大會と蘇聯邦の動向.....
蘇聯の第三次五ヶ年計畫.....
フランスの空軍勢力(下).....
ピエール・コート.....
二四

第七十四議會通過の諸法律(上)

一、運輸・通信政策.....	九
二、社會・文化政策.....	一
三、軍事關係.....	一四

大獨逸の食糧自給問題.....
一九

大獨逸の原料資源と礦工業の強化.....
二一

庶民金庫と借金經濟.....
二七

二ユーニ銀の買上げ實施.....	三四
イギリスの海運助成案.....	四六
ボーランド援助を英首相聲明.....	四七
米棉輸出計畫をル大統領勧告.....	五五

財界けふこの頃.....

二九

同盟通訊社

國際經濟報

(No. 997)

號五十第 卷十二第

昭和四十四年十月三十日發行

【主要目次】

平沼内閣の補強とその前途 一五

イタリアのアルバニア占領 一七

米國への金流入激化 一九

第七十四議會通過の諸法律(下)

四、租 賦 政 策	九
五、金 融 政 策	一一
六、鑛 工 業 政 策	一二
七、農 村 政 策	一三
八、政 策	一四

急迫せる肥料問題

電鐵資本の獨占化と帝都交通調整 二七

日ソ暫定漁業協定妥結 三〇

米國中立法案公聽會開く 四二

伊軍アルバニアを占領 四五

天津手藝工人の家庭生活調査(上)

一一

本年度第一期總索引目錄 卷末に添附

定價廿五錢

同 盟 通 信 社

濟經國際報

(No. 998)

號六十第 卷十三第

行發日十二月四年四十和昭

〔主要目次〕

強權的勞働統制の出發

- 労賃の昂騰と賃金統制令……………一九
労働強化と就業時間制限令……………二〇
労働者不足と雇入制限令……………二一
技能者養成令の大綱……………二二

日蘇漁業交渉の妥結

綿布輸出や好轉す

獨伊のアフリカ工作

天津手藝工人の家庭生活調査(中)……二五

蒙疆經濟建設の現狀と諸問題 二九

軍需品價格引下案.....三三

華北交通會社 憲々創立

満洲國國民總服役制を採用
伊太利アレバニア并合

財界けふこの頃……

國際經濟報

(No. 999)

號七十第 卷十二第

昭和十四年四月廿七日發行

【主要目次】 聯銀券の制覇と

北支通貨の現狀

- | | |
|------------|----|
| 北支通貨統一の進捗 | 九 |
| 中國聯銀券の制覇 | 一五 |
| 一志二片對八片の問題 | 一七 |

工場規模變化の趨勢

- 昭和十二年工場統計の解剖— 一九

滿洲產業開發と「滿炭」の役割

二三

天津手藝工人の家庭生活調査(下)

二五

財界ふこの頃

二九

新南群島の所屬公示	三二
スーエニ物價統制の大綱	三三
武漢特別市政府成立	四二
英國軍需省新設に決定	五〇

國際經濟報

(No. 1000) 行發日四月五年四十和昭 第二十一卷 第十八號

號大倍念記號千一刊創

物價統制政策の全面的検討

- | | |
|---------------|-------------|
| 物價統制の意義………七 | 利潤統制と物價………元 |
| 我物價の趨勢と地位………元 | 勞賃統制と物價………三 |
| 物價政策の發展………三 | 農業問題と物價………三 |
| 適正價格の基礎條件………四 | 輸出振興と物價………三 |
| 公債消化と貯蓄獎勵………七 | |

支那經濟建設と蔣政權の苦惱

- 中國共產黨の進出………元

- 蔣政權の對外政策………四

- 北支經濟建設の現狀………四

- 汪・吳の和平運動………四

- 麥加利銀行と事變………四

- 緬甸ルートの現狀………五

- 怡和洋行由來記………五

動搖する印度・佛印・濠洲

- 印度の反英運動………六

- 佛印の對蔣・對日關係………六

- 濠洲の對日政策………七

- 昨年の佛印對外貿易………七

危機線上の兩樞軸の對立

- 英國の獨逸包圍陣………七

- バルカン諸國の對立………八

- 近東諸國の新動向………八

- 米國の外交政策………八

- 歐洲列國の陸海空軍勢力………八

- 米國の外交政策………八

- 米國の次期大統領をめぐる噂と動き………八

- 佛蘭西を支配するものの………八

同 盟 信 通 社

國際經濟報

(No. 1001)

號九十第 卷十二第

行發日一十月五年四十和昭

【主要目次】

華興商業銀行創立とその役割 一七

蔣政權の戰時交通政策 二一

北支棉花協會の成立 二〇

滿洲國の水力發電計畫 一六

滿洲建設を語る座談會

星野直樹 田中恭

高橋少佐 坪上貞二

リトヴィノフの退場と蘇聯の動向 二二

英國の「危機豫算」 二四

獨逸の新財政計畫 ニコノミスト 二六

地方長官會議と首相、藏相の訓示 二九

華興商業銀行創立と華興券の特徴 三六

ボーランドの對獨回答内容 四五

英米軍需バーター交渉開始 四八

財界けふこの頃 二八

定價三十銭

同 盟 通 信 社

國際經濟報

(No. 1002)

號十二第 卷十二第

行發日八十月五年四十和昭

統制經濟下における清算取引の變貌

序論 清算取引の萎縮と取引所機能の轉換

九

株式 投機市場より投資取引へ 一〇
生絲 清算取引による需給の歪曲 一三
人絹 生産配給統制強化と原絲飢餓 一四
綿絲布 綿絲取引廢止から綿布格付取引へ 一五
砂糖 價格公定と保稅糖賣禁止の壓力 一六
米穀 短期的價格變動の縮小と投機の排除 一八

稅制整理の目標と方向

稅整遂行への問題 一九
稅整の目標と方針 二〇
稅整の具體的諸問題の方向 二四

スユニ豫算實行方針通牒 三三
米國炭坑罷業解決 四二
獨伊政治軍事協定成る 四五
長江・上海をめぐる諸問題(現地報告) 二八

英蘇交渉と英國の意圖 二六

定價三十錢

同盟通信社

國際經濟報週

(No. 1003)

第廿一號 第十二卷

昭和五年五月廿五日發行

【主要目次】

戰爭危機に動搖する米國經濟

金の流入と信用機構

米國貿易政策の轉換

東洋が死命を握る軍需原料

膨脹する米國の對滿貿易

進展する通貨の膨脹

石炭の配給統制強化と增産政策

獨逸の労働奉仕義務の擴張(上) ジループ：二四

獨羅新經濟協定 ヴォルタート：二六

スユニ	歐洲情勢對應策閣議で決定	三二
	米國政府景氣振興に乘出さん	四三
	パレスチナ問題白書發表	四四
	ユダヤ人總罷業と聖地の騒擾	四五

海南島・廣東を見る(現地報告) 二八

國際經濟報

大正九年十月九日第三種郵便物認可
毎週一回木曜日發行

(No. 1004)

號二廿第一 卷十二第二

行發日一月六年四十和昭

英國危機豫算の全貌

【主要目次】

英國財政の新段階.....

サイモン藏相の豫算演説(全文).....

本年度豫算の大綱.....

本年度物資動員計畫成る.....

活況を呈する最近の起債界.....

蒙疆政權の動向.....

獨逸の労働奉仕義務の擴張(中).....

ジループ：ニセ
租界肅正は當然——外務當局談.....

絲配給統制案決定す.....

獨伊親善同盟協定に調印.....

第百五回聯盟理事會開く.....

二九

五〇

戰爭の場合米國經濟はどうなる.....

定價三十錢

社信通盟同

國際經濟報

(No. 1005)

號三廿第 卷十二第

昭和六年八月六日發行

【主要目次】

- 纖維需給調整協議會の設立 二〇
沸騰せる春繭相場 二二
獨逸の新労働統制法(下) ジループ: 二七

主要諸國の租稅制度

英米佛獨伊の租稅制度 九

わが國租稅制度の變遷 一七

英國の軍需省設置と利潤統制案

濠洲新内閣の成立と政局の動向 二五

静岡縣下の繭初取引情況 三三

支那事變發生以來の戰果 三六

米國新中立法修正案を提出 四一

モロトフ・ソ聯外務人民委員の演説 四七

財界けふこの頃 二九

同信通社

經濟國際週報

大正九年十月九日第三種郵便物認可
毎週一回木曜日發行

(No. 1006)

號四廿第 卷十二第

行發日五十月六年四十和昭

【主 要 目 次】

法幣相場の第二次崩落……………一六

商工省の機構改革……………一八

英國の通商政策の新動向……………二七

轉換期に立つ新興コンツエルン

新興コンツエルンの新段階の意義……………九

森財閥—電工・昭和合併の示唆……………一〇

理研財閥—濫立小會社の整理統合……………一一

中小商業の没落とその対策……………二二

小賣商許可制の検討……………二五

商工行政機構の改正決定……………三一

金の強制買上げも斷行……………三三

法幣相場崩落とその波紋……………三九

ボリヴィアの礦業新政策……………五二

東株理事長の選任(財界けふこの頃)……………二九

定價三十錢

社信通盟

濟經國際週報

(No. 1007)

號五廿第 卷十二第

行發日二廿月六年四十和昭

【主 要 目 次】

急迫する租界問題

租界は外國領土にあらず

- | | |
|----------|----|
| 上海租界改組問題 | 一〇 |
| 租界工部局の實情 | 一一 |
| 天津英佛租界封鎖 | 一五 |
| 鼓浪嶼租界問題 | 一八 |

國家資本進出の方向

臺灣の新興工業

米國は英佛側に參戰し得るか	リップマン	二五
陸軍の低物價具體案	二三	二三
商工省官制等發令	三五	三五
天津の英佛租界隔絶	四一	四一
ライヒスバンク改組	五三	五三

イランをめぐる列國の抗争

『そよかぜ』紀行……江口少佐二七

定價三十錢

同 盟 通 信 社

國際經濟報

(No. 1008)

號六廿第 卷十二第

行發日九廿月六年四十和昭

【主要目次】

日滿兩國の對獨貿易の發展 一七

貿易省設置問題と貿易委員會案 一九

小麥豐作と日滿支の小麥粉需給 二一

内地人口增加率の低下 二二

濃化する英國三大領の離反氣運

濠洲經濟の對英依存性 九

加奈陀に對する英米勢力の交代 一二

英領印度の新局面 一五

汕頭攻略の重要性 三四

英國における軍需跛行景氣の展開 二五

獨逸の石油自給力 二六

初給賃銀標準額決定 三〇

上海華商銀行の部分的モラ實施 三七

汕頭に上陸、忽ち攻略 四〇

英米バータ協定調印 五〇

國際經濟報

(No. 1009)

號七廿第 卷十二第

昭和十七年六月廿四日發行

【主 要 目 次】

英・蘭の搾取に喘ぐ南洋の寶庫

蘭印の政治的立場

和蘭の東印度侵略史

蘭印の人口構成

蘭印經濟の現状

蘭印の對外貿易

英領マレーの政治經濟情勢

華僑の現状と支那事變

米國議會の銀騷動
福建省の對外貿易

天津問題解決に日英東京會談

上海華商銀行の預金支拂制限緩和
米國通貨權限失効と銀市場の異變
日佛通商交涉、日濱通商交渉妥結

歐洲戰爭の展望
エリオットニル

本年度第二期總索引目錄 卷末に添附

定價三十錢

同 盟 信 通 社

國際經濟報

(No. 1010)

號八廿第 卷十二第

行發日三十月七年四十和昭

【主 要 目 次】

- 興業銀行の發展史とその役割 一五
東京會談の展望 二〇
ダンチヒ問題の歸趨 伊藤 正徳 二二
租稅收入の増勢と國民所得の推計 二三

近東における英佛・獨伊の角逐

起ち上る回教諸國 九

トルコの地位と動向 一〇

イラン・イラク・シリア・アフガニスタン 一一

アラビア兩國の獨伊樞軸接近 一四

日濠通商取極の改訂 二五

日佛通商協定の成立 二七

日本鋼管・鶴見製鐵造船の合併 二九

事變第二周年に平沼首相談 三五

ス——ニ
陸海軍航空部隊の戰果 四二
國府輸入制限を實施 五三
北支爲替集中制全品目に擴張 五五

滯荷綿布をめぐる問題 (財界けふこの頃) 三二

國際經濟報

(No. 1011)

號九廿第一 卷十二第

昭和十四年七月十二日發行

【主要目次】

- 米國の新景氣政策 一九
米國の銀驥動の結果 二二
米國の中立法修正敗る 二十四

印度支那における英佛勢力

事變下の佛領印度支那 九

タイの國權回復運動 一一

英國のビルマ支配組織 一六

分類所得稅と地方分與稅

砂糖飢餓の實體と圓ブロツク需給 二九

二六

スーエニ	日英東京會談始まる	三三
汪精衛の和平聲明	四三	
伊西政治經濟協定成る	五一	
米國の對日貿易制限決議案	五三	

農村に聽く(財界けふこの頃)	三一
定價三十錢	三一

同 盟 信 通 社

國際經濟報

(No. 1012)

號十三第 卷十二第

昭和四十一年七月廿七日發行

【主要目次】

好調を呈する綿布輸出 一五

スターーリング外交と輸出信用保證局 二〇

ライヒスバンクの改組 二二

ナチス政権下のユダヤ人の没落 二十四

農產物價格と統制政策の検討

農產物價格の合理的的形成への展望 九

農產物價格變動と購買力の低下 一三

スペインの再建工作 エコノミスト 二五

フランス經濟二十年の變遷 二七

米國の内燃機關工業の動向 三〇

日英會談原則取極め成る
華興券の法幣離脱 三三
法幣の第三次崩落 四一
米國の反日兩決議案葬らる 五一

輸出獎勵の新目標——國產食料品の點描 一七

國際經濟報週

(No. 1013)

號一十三第 卷十二第

行發日三月八年四十和昭

【主要目次】

- 貿易の好轉と輸出増進策 一六
上半期對外貿易の解剖 一八
爲替管理と正金銀行の變質 二一

日米通商條約廢棄と日米關係

日米通商條約廢棄と日米關係 一九

米國議會とルーズベルト政府の立場 一二

日米貿易の實狀と問題の焦點 一四

上半期計畫資本と生產力擴充 二四

法幣の第三次崩落と聯銀券・華興券 二五

世界小麥相場の暴落 二八

スーエニ	日英會談原則問題聲明	三三
	滿洲物價政策の大綱可決	四二
	日米通商條約を廢棄	四七
	日獨貿易協定假調印成る	五一

金融家の認識(財界けふこの頃) 三一

國際經濟報

(No. 1014)

號二十三第 卷十二第

昭和八年十月八日發行

躍進する拓殖會社の概貌

【主 要 目 次】

新秩序建設と拓殖會社の發展 九

東拓 劇期的發展時代來る 一〇

鮮拓 鮮農移植計畫と實績 一五

臺拓 南方國策の發展 一七

南拓 存在意義の不徹底 一八

南興 南洋開發の先驅者 二〇

日獨貿易協定の成立とその特質 二三

獨逸の對蘇政策 シヤツヘル：二五

勤勞所得稅とはどんなものか 二七

スーエニ	稅制改正案の要綱	二三
米國資金撤布案否決	擴大國防會議を蔣介石召集	四一
米國商品金融會社資本損失補填案擯棄し	四六	四七

再燃せる貿易省問題（財界けふこの頃） 二九

國際經濟報

大正九年十月九日第三種郵便物認可
毎週一回木曜日發行

(No. 1015)

號三十三第

卷十二第

行發日七十月八年四十和昭

【主 要 目 次】

ルーズヴエルト政權の行衛 一四

米國第七十六議會の成績 一六

イタリアの財政改革 一九

北支における物價問題の検討

北支物價騰貴の原因 一九

爲替問題——法幣崩落と聯銀券 一一

北支物價騰勢の解剖 一二

獨蘇接近の可能性 ヴルフニ

外貨獲得の戰士——罐詰工業 二五

分類所得稅案の要綱 三〇
法幣又復崩落の一途を辿る 三七
汪精衛廣東より和平放送 四一
メンドルスゾーン銀行支拂停止 四七

賀屋の北支開發入り（財界けふこの頃） 二七

定價三十錢

同 盟 通 信 社

國際經濟報

大正九年十月九日第三種郵便物認可
毎週一回 木曜日發行

(No. 1016)

號四十三第 卷十二第

昭和八年四月廿日發行

【主要目次】

- 満鐵增资と滿洲國の資本參加 一五
中堅職工の賃金實情 一七
米價の昂騰と配給・價格統制 二一

第三次日印會商の開幕迫る

- 第三次會商における日印の主張 一九
新英印通商協定と日印^{第三次會商} 一一
第一、二次會商の回顧と實績 一二

法幣對策と新貿易通貨發行說 二三

- 合成化學工業の登場 二五

スーエニ	日英會談事實上決裂	三〇
支那の新貿易通貨發行案	各稅改正案の要綱	三二
ダンチツヒ問題調停に高等辦務官乗出す	四二	五〇

財界けふこの頃

- 二六

定價三十錢

社信通同盟

國際經濟報

(No. 1017)

號五十三第 卷十二第

昭和四十八年八月一日發行

【主 要 目 次】

- 日英會談決裂とその後に來るもの 一七
石炭統制の新段階 二一
肥料統制の進展と硫安需給の逼迫 二二

獨ソ提携の意義と影響

獨ソ不可侵條約の成立 九

獨ソ接近の經濟的必然性 一二

獨ソ提携の波紋と和戰の鍵 一四

戰時金融政策と日銀の變貌 二五

改正郵便年金制度の概説 二八

ビール飢餓の正體と對策 二九

イギリスの爲替平衡資金の出動停止 四四

英波相互援助條約に調印 四五

獨ソ不可侵條約調印成る 四八

獨ソ通商協定調印 五六

財界けふこの頃(獨ソ不可侵條約を継りて) 三一

國際經濟報

(No. 1018)

號六十三第 卷十二第

昭和十九年七月九日發行

【主要目次】

歐洲大戰愈々至る……………伊藤正徳……………九

阿部内閣の誕生とその使命

政變より組閣まで……………一〇

阿部内閣の外交政策……………一三

新内閣の財政經濟政策……………一四

閣僚ひとりひとり

阿部首相……………一七
伍堂農商相……………一八

金光拓相……………一九

河原田文相……………二〇

畠陸相……………二〇

青木藏相……………一七
永井遞鐵相……………一九
小原内厚相……………二〇
宮城法相……………二〇
吉田海相……………二〇

米穀配給統制法第四條遂に發動……………一一

海運の官治統制愈々實現……………二五

茂山鐵山開發の意義……………二七

蒙古聯合自治政府生る……………二九

財界けふこの頃(阿部内閣と財界その他)……………三一

物價統制實施要綱……………三四

濟經國際報

大正九年十月九日第三種郵便物認可
毎週一回木曜日發行

(No. 1019)

號七十三第 卷十二第

行發日四十月九年四十和昭

第二次歐洲大戰遂に勃發

【主 要 目 次】

第二次大戰勃發の經緯……………九

戰略的に見た第二次歐洲大戰……………二

英・佛・獨の戦争經濟力……………十四

大戰と米國中立法の發動……………一六

歐洲動亂と帝國外交……………一七

日本經濟への影響と對策

總論：一九 貿易：二〇 爲替：二一

海運：二三 損保界：二四 物價：二五

株價：二六 纖維工業：二七 化學工業：二八
重工業：二九 罐詰工業：三〇 原料關係：三一

第一次大戰景氣の回顧……………三四

定價三十錢

同信通盟社

國際經濟報

(No. 1020)

號八十三第 卷十二第

行發日一廿月九年四十和昭

【主要目次】

割期的稅制改革案の概要

稅制改革の目標と基本體系……………九

國稅改革案の概要……………一〇

地方稅改革案……………一七

增稅七億圓と各稅收入……………一九

阿部内閣の政綱批判……………二〇

純正國民黨の發足と中國新中央政權……………二二

英國爲替並に貿易管理を斷行……………二五

ニユース	満蒙國境停戰協定成る……………二九
一	米英クロスレートの崩落……………四一
ス	歐洲大戰ニュース……………四五
交戰國その他各國の戰時財經策……………四八	

今次歐洲大戰餘聞……………二七

定價三十錢

社信通同盟

國際經濟報

(No. 1021)

號九十三第 卷十二第

昭和十九年九月八日發行

【主 要 目 次】

權益を繞る日ソ關係

- 停戰協定成立と日ソ關係打開
對ソ權益の雄、露領漁業の現況 一〇
危殆に瀕する石炭利權の行衛 一四
埋藏量二億噸の北樺太石油 一六

一般價格停止令の發動

- 砂糖飢饉の正體と配給機構の整備 一八
電力動員實施の意義 二〇
熱狂する世界海運市況 二四

ニ 價格等全般的引上げ禁止	二九
ユ 中國新中央政權樹立に三巨頭の意見一致	三五
一 米國大統領の中立法特別教書内容	四一
獨・英・佛・伊各首腦の演説	四六

日ソ停戰協定とソ聯の波蘭進駐

國際經濟報

(No. 1022)

第十四號 第十二卷

昭和十年五月十日發行

【主要目次】

歐洲動亂下の國際商品展望

總論 國際カルテルの機能停止……………九

鐵鋼 有卦に入つた業界……………一〇

銅 需要増大に國際カルテル崩る……………一一

錫 國際カルテル遂に機能喪失……………一四

鉛 最近の相場位置……………一五

亞鉛 伸悩む市價……………一六

棉花 低迷を脱し市價奔騰に一轉……………一七

小麥 大戰勃發で相場昂騰……………一九

ゴム 戰時需要増大し相場急騰……………二一

中國中央政治委員會の結成

貿易省設置の機運熟す……………二三

官吏制度の改革とは……………二八

イタリア中立の背後關係 ……パーマー中佐二五

國際經濟報

(No. 1023)

號一十四第

卷十二第

行發日二十月十年四十和昭

【主要目次】

昭和十三年度國庫現計の解剖 二〇

農業團體再編成の機運 二四

新米穀市場の取引手法 二六

貿易體制の確立と我が貿易環境

貿易省の設置とその意義 九

第三四半期貿易の解剖 一一

複雜多變な我が貿易環境 一四

大戰對處の爲替政策も確立 一七

汎米會議の中立宣言採擇

地方長官會議の三大臣演說 二〇

貿易省設置要綱決定 二二

チエンバレン英首相の演說 二三

ヒトラー獨總統の演說 二五

上海巷間財話 二八

國際経済報

(No. 1024)

號二十四第

卷十二第

昭和十年十月九日發行

【主 要 目 次】

- 歐洲大戰は愈々長期化の體勢……伊藤 正徳 一六
バルカンを繞る微妙な外交戦……………一七
英國は石油を確保し得るか……………一九
歐洲戦争と比島貿易の異變……………二〇

英・獨・佛の戦時食糧問題

英國の戦時食糧問題……………九

獨逸の戦時食料供給……………一二

佛國の戦時食糧問題……………一四

綿織物輸出實績とその解剖……………二三

臺灣糖業令の實施……………二五

纖維及び石炭増産計畫等物價委員會の答申……………二九

ソヴェト・フィンランド關係の緊迫化……………四一

チエンバレン英首相の演説……………四五

ダラディエ佛首相和平提案を拒否……………四六

財界けふこの頃（石油共販は何處へ往く）……………二六

國際經濟報

(No. 1025)

號三十四第

卷十二第

昭和十年十月廿六日發行

【主 要 目 次】

再検討を要する滿洲開拓政策

開拓移民の新意義 一七

滿洲開拓の経過と實績 二〇

満拓改組と鮮拓統合問題 二二

歐洲大戰勃發顛末記 (上)

十月十
七日附

英國白書

第二
次

〔電文堂々一萬六百語 九

日滿支經濟協議會の意義 二五

圓ブロックへの砂糖供給確保 二七

獨潛水艦脅威下の戰時英國海運業 二九

歐洲開戦を繞る英米戰時保險の推移 三〇

上海の金融緩慢と匯割割引率の軟化 三三

國際経済報

(No. 1026)

號四十四第

卷十二第

昭和四十一年二月一日發行

【主要目次】

- 轉換期鐵鋼業の諸問題 二四
東邊道の資源を探る 二六
財界けふこの頃(商業者の新たな出發の爲に) 二八

爲替基準變更の意義

弗リントへ遂に轉換 九

貿易上からみた磅と弗 一二

最近の爲替政策變遷略史 一四

スターリングの封鎖とその波紋 一六

爲替基準變更と新爲替協定	三四
圓爲替基準變更と海外反響	四二
インド國民會議派の反英決議	四八
リッペントロップ獨外相の演説	四九

英國白書

ヘンダーソン最
終報告の內容

歐洲大戰勃發顛末記(下) 一八

定價三十錢

同信通社

國際經濟報週

(No. 1027)

號五十四第

卷十二第

昭和四十一年九月一日發行

〔主 要 目 次〕

蒙疆事情現地報告

- 蒙古統一政權の全貌 九
蒙古新政府の財政政策 一二
蒙古の通貨・金融政策 二二

- 事變前の金融機關の概況 一三
通貨・金融政策の現狀 一五
蒙疆經濟の再検討 一六

貿易と物價に見るその脆弱性 一六

- 蒙疆の資源と產業開發計畫 一八
西北貿易の現狀 二一

- 西 北 貿 易 の 現 狀 二一

- 日米會談始まる 三五
アメリカ中立法修正法成る 三四
イタリア内閣の大改造 五〇
ソ聯第五次最高會議の決定 五三

第一種所得綜合課稅問題の檢討

- 歐洲動亂とインドの動向 二八
第一種所得綜合課稅問題の檢討 二三

定價三十錢

同·盟·通·信·社

國際經濟報

大正九年十月九日第三種郵便物認可
毎週一回木曜日發行

(No. 1028)

號六十四第

卷十二第

昭和四十一年十月六日發行

米穀緊急措置遂に斷行

- | | |
|-------------|----|
| 公定最高米價引上げ原因 | 九 |
| 米穀の緊急措置決す | 一〇 |
| 米穀小賣價格の公定 | 一一 |
| 外　　米　　の　　話 | 一九 |

サイモン相の英國戦時豫算演説（全文）

ドイツの和蘭侵入説と蘭印防衛問題

ソ聯外交の新段階	三〇
ス　　ユ　　ニ	
ア　　メ　　リ　　カ　　船　　籍　　移　　轉　　問　　題　　成　　行　　き	四〇
ヒ　　ト　　ラ　　一　　總　　統　　の　　ミ　　ュ　　ン　　ヘ　　ン　　演　　說	五三
白　　蘭　　兩　　元　　首　　の　　和　　平　　調　　停　　申　　出	五四

本年度第三期總索引目錄 卷末に添附

定價三十錢

同 盟 信 通 社

濟經國際週報

大正九年十月九日第三種郵便輸送可
毎週一回木曜日發行

(No. 1029)

號七十四第

卷十二第

行發日三廿月一十年四十和昭

【主 要 目 次】

戰時財政の赤信號——

通貨膨脹と公債消化の鈍化 ······

石炭配給機構の改革問題 ······

植民地阿弗利加の概貌

イタリア對阿政策の一一面性 ······

英領阿弗利加植民地の現勢 ······

佛領阿弗利加と白領コンゴ ······

北海作戦の意義 ······

米第二回收穫豫想微増 ······

英佛の北支駐屯軍引揚げ ······

北海附近の上陸作戦 ······

白蘭兩元首の和平提議を英佛獨拒絶 ······

財界けふこの頃(遠洋進出を繰る思惑いろいろ) ······

國際經濟報

(No. 1030)

號八十四第

卷十二第

行發日十三月一十年四十和昭

【主 要 目 次】

- 六中全會と重慶の混亂 一九
工事進む第二松花江大水電 二〇
第二種綜合課稅に選擇主義採用 一六

本格化した滿洲國物價對策

物 價 統 制 の 進 展	九
時局物價政策大綱の骨子	一〇
價格並に配給の統制	一一
購買力規正の諸方策	一二
家賃及び住宅建築の統制	一三
小麥及び小麥粉の配給統制	一五
ソ聯海運界の現狀	二四
交戰國の壓迫に悩む白蘭兩國の經濟	二五
動員可能の英佛保有金資金	二六
ソ 芳 交 涉 の 決 裂	二二

國際經濟報

大正九年十月九日第三種郵便輸送可
毎週一回木曜日發行

(No. 1031)

號九十四第

卷十二第

行發日七月二十年四十和昭

【主要目次】

- 大戰と米國の對外貿易 一七
小作料統制令の意義 一九
帝都交通統制問題 二二

進展する金融統制

金融統制の進展とその再批判 一九

生産力擴充資金とその調達 一一

公債消化問題の登場 一四

値上げ必至の硫安公定價格 二四

ス - ュ -	石 油 配 給 問 題 解 決 す	三二
ソ 芬 開 戰 と ソ 聯 の 對 芬 工 作	四 四	
フ イ ン ラ ン ド 親 ソ 政 權 成 る	四 七	
獨 貨 拿 捕 令 を 英 佛 公 布	五〇	

- 配給機構整備の問題 二六
英 国 の 對 獨 封 鎖 二七

定價三十錢

同 盟 信 通 社

國際經濟報

大正九年十月九日第三種郵便物認可
毎週一回 木曜日發行

(No. 1032)

號十五第 卷十二第

昭和二十年四月二十日發行

【主要目次】

伊太利の經濟的弱點と英佛の抱込策.....一九

事業資金の調整標準改正.....二二

滿鐵增资の意義.....二十四

明年度百億豫算の全貌

豫算膨脹の趨勢.....九

戰費及び國防費の増大.....一〇

文治各省豫算の内容.....一一

歲入計畫と物動計畫.....一五

豫算編成の經過.....一六

東亞經濟懇談會の收穫

稅制改正要綱決定.....三二

米穀應急對策.....三八

チタ會議開く.....四六

滿洲國貿易統制品目追加.....五三

第一次歐洲戰と今次の大戰

ベネシュ博士 一八

定價三十錢

同盟通信社

國際經濟報

大正九年十月九日第三種郵便物認可
毎週一回 本曜日發行

(No. 1033)

號一十五第 卷十二第

行發日一廿月二十年四十和昭

【主 要 目 次】

海上捕獲法上に於ける英國主義.....

二三

歐洲大戰と米國航空機工業の躍進.....

二六

南方策の新展開.....

三一

歐洲戰局の大觀

滿を持する西部戰線.....

九

善戦するフィンランド戰線.....

一二

バルカンを繞る列強謀略戰.....

一四

稅制改革案成る

—— 稅制改革案の要綱

二九

—— 米穀需給緊急對策

三五

—— 國際聯盟反ソ決議を採擇英佛金融經濟協定成る

三九

—— 一八

米國新中立法(全文)

定價三十錢

同盟信通社